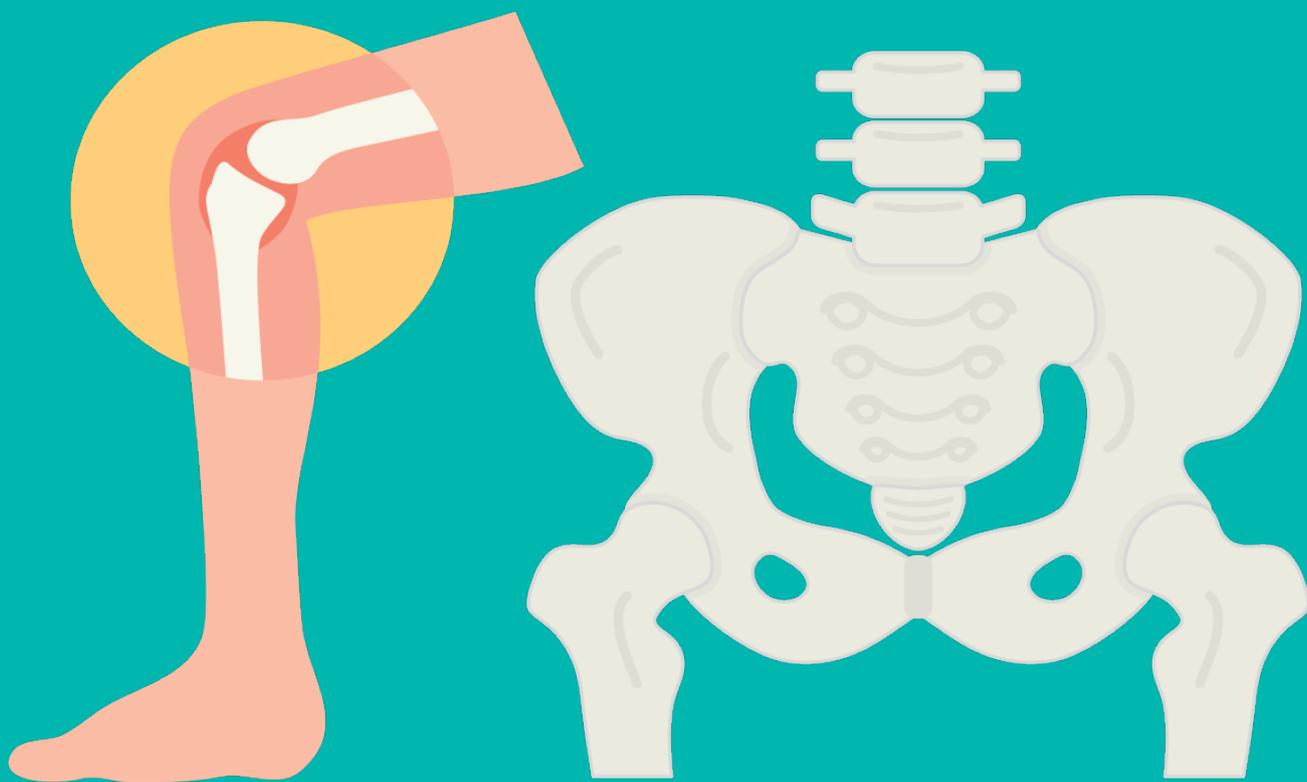


relation@

くすの木病院 地域連携だより「りれーしょん」

今号より地域連携だよりがリニューアルしました。「relation」には「関係、縁、繋がり」という意味があります。この「relation@」という広報誌名には、地域の皆様との関係を大切に地域医療に貢献していきたいという思いを込められています。



膝・股関節

～安全で短時間の手術の実践～





整形外科診療部 海老原 吾郎

前職の東海大学病院では約20年勤務し、下肢班のトップとして主に股・膝関節疾患に対して年間100件以上の人工股関節置換術（THA）、人工膝関節置換術（TKA）手術に携わる。東海大学は、ドクターヘリを日本でいち早く取り入れた3次救急に非常に力を入れている病院であり、高エネルギー外傷の治療に携わることが非常に多く、開放骨折に対する即日髓内釘（大腿骨、脛骨併せて年間50件程度）や創外固定はもろんのこと多発外傷、骨盤骨折に対する手術を昼夜問わず非常に多く担当した。

特集

Special Feature

膝・股関節

～安全で短時間の手術の実践～

長時間の手術は身体への負担が大きくなり、生存率や合併症、術後のライフスタイルやQOLに影響します。特に高齢者は、基礎疾患を有していたり、予備能力が低下していたりするため、若年者に比べて手術リスクが高い状態です。「手術で怪我は治癒したが、寝たきりになってしまった」ということが起きないように、ADLやQOLの手術後変化への考慮が重要となります。

当院では、高齢者への手術は可能な限り早期に安全に短時間で行うことを心がけています。内科医や麻酔科医と連携をはかり、消化器や循環器など患者情報の共有を密に行い、基礎疾患

をコントロールして安全に手術ができる状態にすることをめざしています。

- ・人工股関節置換術：30～60分間
- ・人工膝関節置換術：90分間
- ・人工骨頭挿入術：30分間
- ・大腿骨転子部骨折や安定型頸部骨折：15分間

を目標とし、術後の合併症の発症を抑え、早期離床ができるようにしています。

海老原医師入職し、当院の人工股関節置換術、人工骨頭置換術、人工膝関節置換術の件数が**262.5%増加**しました。

Profile

整形外科診療部
海老原 吾郎
EBIHARA GORO

2013年4月より東海大学医学部医学科外科学系講師に就任。2020年4月より現職。
日本整形外科学会専門医、日本人工関節学会所属、東日本整形災害外科学会所属、
日本骨折治療学会所属、関東整形災害外科学会所属

手術室

不安感を少しでも和らげたい

手術室は、病棟とは大きく異なり非日常的な環境なため、不安や緊張感を抱きやすくなります。過度な不安や緊張は、血圧上昇などを招き、麻酔導入に影響を及ぼす危険があります。手術前に、手術室看護師が患者様の病室へ術前訪問をする目的は、手術の説明だけではありません。手術室看護師が患者様と事前に面識を得ることで、手術室へ入ってからの不安を和らげることも大きな目的のひとつです。

当院では術前訪問の際に、当日手術に立ち会う看護師が病室へ訪問し「手術中、私がそばにいますので、安心してください。」と挨拶をしています。また、手術室内の様子がわかるように、室内の写真をお見せしながら入室から手術までの流れを説明するなど、少しでも患者様の不安を和らげる取り組みをしています。

また、手術後の看護ケアのために、病棟看護師の手術見学を実施しています。実際に手術の様子を知ること、病棟での看護ケアに役立っています。



▲ 術前訪問時に手術時の流れを説明している様子

回復期リハビリテーション病棟 在宅復帰に向けた充実したリハビリ

今年9月1日より「回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ」の算定を開始しています。6月に受審した病院機能評価機構の審査では、副機能として「リハビリテーション（回復期）」の認定を更新しました。

当病棟では、リハビリスタッフによる訓練だけでなく、日常生活の動作を意識した入院生活もリハビリになります。在宅復帰に向けて、毎日の着替えや食堂での食事、トイレでの排泄、入浴などの日常動作が少しでも自立できるように訓練を行います。また、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士以外にも、専任の管理栄養士や社会福祉士、その他専門スタッフが在宅復帰に向けた入院生活をサポートしていることもこの病棟の特徴です。専任の管理栄養士による栄養管理・指導、歯科衛生士による口腔ケアも、リハビリの効果や在宅復帰の促進に繋がっていると考えられます。退院後の自宅での生活を想定し、家屋調査を行うことで、生活に必要なリハビリの提供や住宅環境の整備を提案しています。

さらに、「休日リハビリテーション提供体制」を構築し、日を空けずに集中した質の高いリハビリを提供しています。これらの取り組みにより、5割近い重症患者に対し、在宅復帰率9割以上、FIM改善割合6割以上※を達成しています。必要に応じて通院・訪問にて、継続的なリハビリが可能です。

※ 6ヶ月間の当病棟の実績（2022/2/1~7/31）

- ・新規入院患者における重症者の割合・・・48.6%
- ・日常生活機能4点以上またはFIM総得点が16点以上改善した重症患者の割合・・・60.0%
- ・在宅復帰率・・・・・・・・・・・・・・・・・・91.9%

もっと伝えたい! 「リハビリテーション科」

当院では、すべての病棟でリハビリを実施しています。現在、理学療法士24名、作業療法士7名、言語聴覚士2名が在籍し、患者様一人ひとりの状態に合わせてリハビリを提供しています。

術後早期からリハビリを開始

急性期では、術後の肺合併症予防と早期離床のために手術前からリハビリを開始し、手術後も早期開始を実践しています。運動機能などの身体機能の維持、改善、再獲得のために術後早期リハビリは重要です。多くの膝・股関節骨折の場合、術後1日目から歩行訓練がはじまり、早期歩行獲得を目指し、患者様の状態に合わせて訓練を行います。また、在宅復帰に向けて、家事や入浴など日常動作訓練を行います。専門医や看護師をはじめとする専門職種との情報共有を密にし、安全で積極的なリハビリの実施に取り組んでいます。

認定理学療法士(運動器)

当院には、運動器認定理学療法士が在籍しています。より専門的で豊富な知識を活かしたリハビリが提供できるよう、科内研修等でスキルアップを目指しています。



地域連携室

2022年10月16日より
部署名が「患者支援センター」から「地域連携室」へ変更になりました。

地域連携室 科長着任のご挨拶

この度、9月16日付で地域連携室へ着任しました萩原千春と申します。地域の皆様方のご要望に添い、地域の医療機関として信頼を得られるよう精進して参りたいと思います。不慣れな点もございますが、今後ともご指導いただけますようお願い申し上げます。



地域連携室 科長
はぎわら ちはる
看護師 萩原 千春

お問合せ先 直通電話番号が変更になりました

直通TEL: 0274-37-2060

直通FAX: 0274-22-2288

Eメール: relation@kusunoki-hp.com



地域連携室 係長
須川 すか



澤入 さわいり



relation@

2022秋号

2022年10月発行 Vol.1



医療法人社団三思会 くすの木病院 広報委員会
〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡607-22
TEL: 0274-24-3111 (代表)
Homepage: www.kusunoki-hp.com